

岐阜県中山間農業研究所ニュース

2018年度 第2号

移転・開所から3か月余が経過した中津川支所では、順調に研究がスタートし、各種生産者団体の視察や就農支援に係る研修実施などにも活用いただいております。まだ来所されていない方は、中間検討会（最終記事に掲載）等の機会にぜひお越しください。お待ちしております！

さて、本号では花きの新しい鉢花品目の新作型に関する研究成果、ならびに果樹関係で新たに取り組みを開始した研究、力を入れている研究の取り組み内容を紹介します。



©岐阜県

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2丁目6-56
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市福岡1821-175
TEL: 0573-72-2711 FAX: 0573-72-3910

研究所ホームページ <http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

● 県オリジナル品種による「トルコギキョウの秋出荷作型」を開発

シクラメン生産と組み合わせることが可能な鉢花品目を検討する中で、今までになかった「トルコギキョウの秋出荷作型」を開発しました。これは、県農業技術センター（岐阜市）が育成した小輪多花品種「プチスタ」シリーズを用い、5月初旬に種播きすることで、敬老の日に合わせて出荷を可能にするものです。この時、茎が伸びてくる抽苔時期に摘芯を2度行うと、花数が多くなり、草姿はコンパクトで倒伏しにくく高品質になる可能性が高いので、現在、現地生産園で実証試験中です。

【支所花き担当 浅野 正】



開花時の草姿
(4号底面鉢、9月14日)



「プチスタシリーズ」
ピンク バイオレット ホワイト

摘芯栽培で地際が強固な品質になる
(鉢を横倒ししても下垂しない)

● 農業の地球温暖化適応プロジェクト(果樹)の取組み開始

夏季冷涼な飛騨地域の果樹栽培でも、近年、高温による果実障害が発生し始めています。当所の記録では、モモの「みつ症（水浸状果肉褐変症）」が平成22年と平成23年に、リンゴの「日焼け果」が平成19年と平成22年に多発したことが確認されています。モモの「みつ症」は、果肉の一部が水浸状となり、重症化するとその部分が褐変し、発酵臭を伴い、食味が低下します。一方、リンゴの「日焼け果」は、直射日光が当たる部分の果皮が白色や褐色等に変色し、商品価値の著しい低下をもたらします。このため今年度から4年間、温度やその他の要因について再検討し、対策技術の開発に取り組みます。



モモ「みつ症」



リンゴ「日焼け果」

(出展：長野県果樹試験場)

● 新品種「えな宝来」,「えな宝月」に続け!クリ育種研究の取組み

県内のクリ産地や和菓子店等からは、銘菓「栗きんとん」の加工に適し収量性が高い「極早生～早生品種」や、高値販売が可能な品種の育成が求められています。これを受け、当所では「えな宝来」「えな宝月」(H28品種登録)を育成し、現在8haが栽培されています。これに次ぐ県オリジナルの新品種を産地に送り出せるよう、加工原料向け優良品種や差別販売できる特徴的な品種の育成に取り組むとともに、生産者にとって収穫時期別の選択肢が増えるよう早生から晩生品種のシリーズ化を目指しています。

【支所果樹担当 磯村 秀昭】

第1期(H9～13年交配)

→H26年に「えな宝来」・「えな宝月」を育成し、H28年品種登録

第2期(H18～21年交配)

→462個体から8個体(美味しい、渋皮がむける等)を選抜し検討中

第3期(H25～27年交配)

→585個体を養成中で、本年度から選抜開始

クリ育種研究の取組経過



第3期で交配した養成中個体の数々



岐阜県

平成30年度試験研究中間検討会を開催します

多数のご参加をお待ちしております

- ◆本所(飛騨市) : 8月22日(水) 13時30分～(担当:中西)
駐車・集合場所 管理棟前
- ◆支所(中津川市) : 8月23日(木) 13時30分～(担当:神尾)
駐車場所 事務研究棟駐車場
集合場所 作業棟前

場所をお間違えなく!